

組合活動は『^{じよ}恕』の精神から

上野原地域は、中央線で東京都心から約70分と山梨県の東の玄関口とも言われています。今から千年程前に織物製品が交易品として商いされるようになり、時代の移り変わりとともに本格的な商売として発展、生産量も拡大し現在の産業の基盤ができ始めました。

昭和に入り、佐波芳雄氏（現在の㈱サワの創業者）が織物機械を修理する鉄工所を7年に開始、『佐波式織機』の開発などをきっかけに機械金属加工を中心とした工業が盛んになってきました。

上野原地域は、機械金属加工を基礎に、戦後大企業が集積する京浜工業地帯との取り引きが活発化することで発展、当組合は昭和29年に県下第1号の協同組合として事業主4社で設立されました。

これまで組合の事業として、相互に親睦を図るための体育祭や研修旅行、人材確保推進事業、労働時間設定改善事業などの職場環境改善事業の実施、また、工業団地構想計画などにもかかわり、上野原市の産業に大きく貢献してきました。しかしながら、オイルショック、バブルの崩壊、生

産拠点の海外移転や大手企業の撤退などのさまざまな経済情勢の変化により組合員が減少、組合活動にも支障を来すほどの多事多難な時期もありました。

その時に組合の状況を大きく変えたのが、平成18年に中央会の支援により開催した『将来の中小零細企業の危機』と題した意見交換会です。その中で、中小零細製造業者の置かれている状況を改めて見つめ直し業界の将来展望を模索できたことが、組合員の意識改革にも繋がりました。

組合員が共有できた将来へ向けての前向きな想いが、現在の活発な組合活動や危機に直面した際にも一致団結できる素地となりました。その時の中央会の年間活動テーマ『恕の心（他人の立場や心情を察する思いやり）』は現在の組合のスローガンにもなっています。

激変する経済社会において、これからも上野原地域のものづくり企業の組織として発展を目指し、県内外への情報発信と未来産業の開拓に常にチャレンジしていきたいと考えています。

